

株式会社キャンバス

《証券コード: 4575》

会社説明会

2017年1月11日 大和証券沼津支店

本説明会の内容

「創薬バイオベンチャー」とは

キャンバスの特徴と強み

抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

「創薬バイオベンチャー」とは

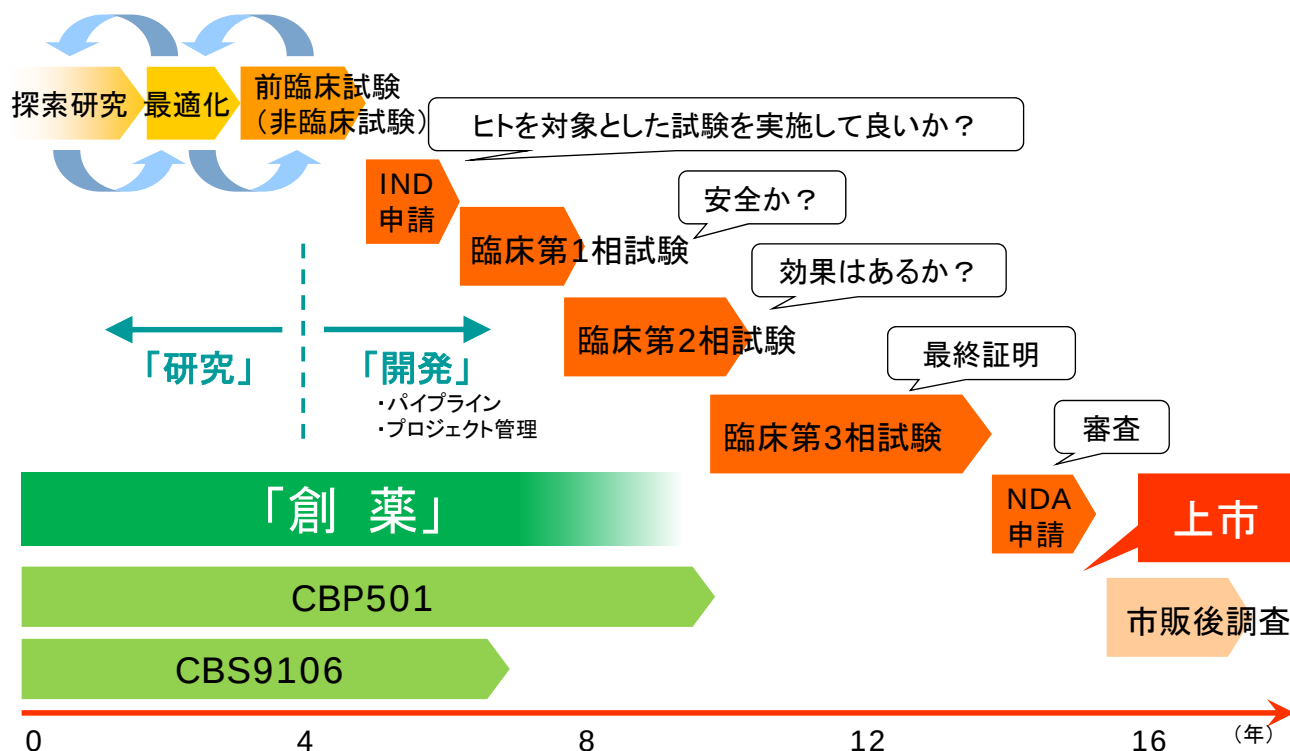
キャンバスの特徴と強み

抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

医薬品のできるまで



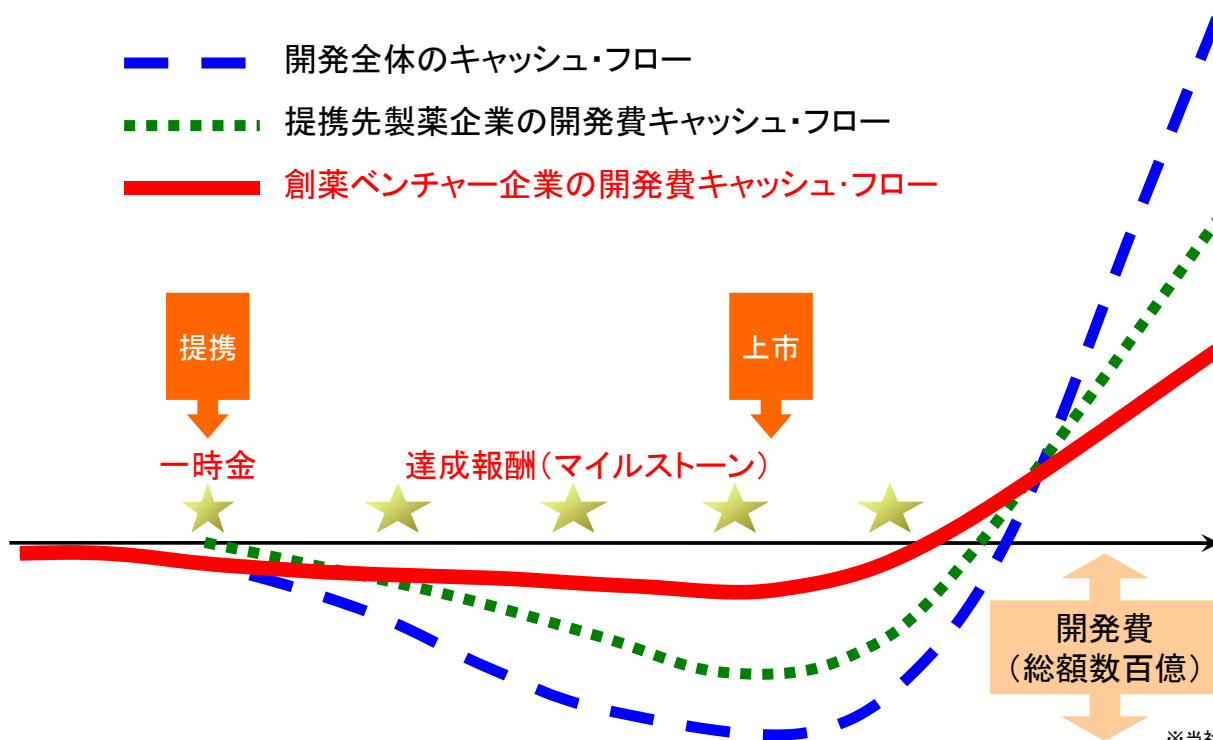
バイオベンチャー概観



4

創薬ベンチャーの収益

提携のキャッシュフローモデル



5

「創薬バイオベンチャー」とは

キャンバスの特徴と強み

抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

会社概要

キャンバスは、「癌を治したい」という思いのもとに
集まったメンバーによる、創薬ベンチャー企業です。

- | | |
|---------|--|
| ■ 会社名 | 株式会社キャンバス
英文名: CanBas Co., Ltd.
証券コード: 4575 |
| ■ 代表者 | 河邊 拓己 (代表取締役社長 M.D., Ph.D.) |
| ■ 本社 | 静岡県沼津市大手町2-2-1 |
| ■ 設立年月日 | 2000年1月18日 |
| ■ 事業内容 | 抗癌剤の研究開発 |
| ■ 従業員 | 13 名 (2016年12月現在)
うち 研究開発部門 10名 (派遣社員1名含む)
管理部門 3名 |

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	導出先
CBP501					
CBS9106					米国 Stemline社
CBP-A					
CBP-B					
IDO/TDO 阻害剤					
(ターゲット 非公表)					

臨床開発段階のパイプラインの状況

CBP501

- 新規提携獲得活動・・・交渉を進めているが、成果には至っていない
- 臨床試験準備・・・
 - ✓ フェーズ1b試験準備進行
 - ✓ 2017年6月期中の臨床試験開始見通し

CBS9106

- 提携先Stemline社による臨床試験の状況・・・
 - ✓ 臨床第1相試験進行中
 - ✓ 臨床試験の最新情報は2017年初にアップデート報告される予定
(2016年8月4日Stemline社公表)

"Phase 1 trial of SL-801 in patients with advanced solid tumors currently enrolling. The first and second dosing cohorts have cleared, and the third cohort is currently enrolling."
 "Trial updates expected later this year and on into next year."

キャンバスの特徴と強み

独特の創薬アプローチ

一般的創薬アプローチ

ハイスループットスクリーニング
特定標的分子に対する
化合物の活性を大量・高速に分析

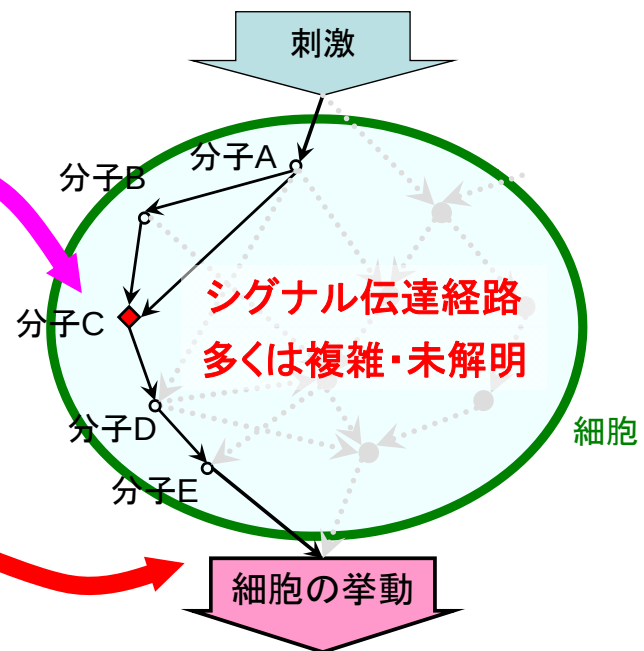
標的分子の特定が必須

当社の創薬アプローチ

細胞の挙動を基準とする
スクリーニング

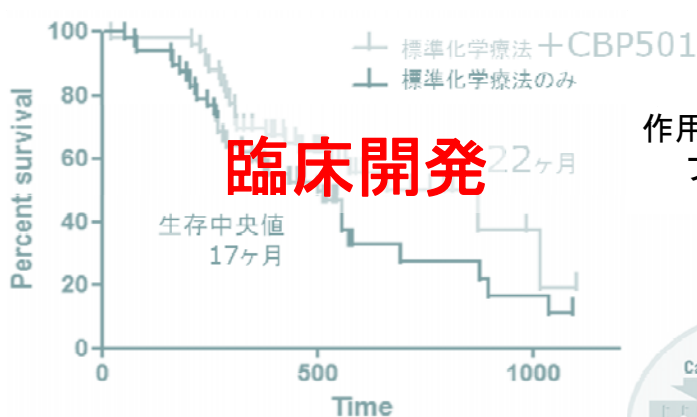
標的分子の特定不要
シグナル伝達経路が複雑・未知でも
対応可能

手作業、ハイスループット化が困難



キャンバスの特徴と強み

基礎研究と臨床開発の連携



作用メカニズム解析
フィードバック

次の新薬創出



新たな
臨床試験計画

臨床試験
解析データ

「創薬バイオベンチャー」とは

キャンバスの特徴と強み

抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

抗癌剤開発の環境変化

報じられてきた未来図

2013年10月22日 日本経済新聞『がんと闘う（上）』

大病の正体 見えた

患者ごと増殖遺伝子狙う

患者ごとにがん細胞のDNAを読み取り、どの遺伝子が本当の原因なのかを突き止め、治療の標的となる「顔」が判別できるようになった。ドライバー遺伝子はその中で最も特徴のある顔だ。

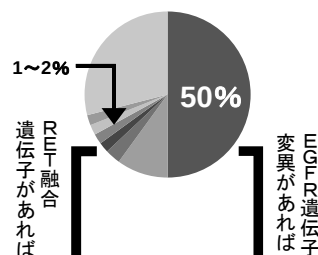
▼ドライバー遺伝子
がん細胞の増殖を促すように変異した遺伝子。...
一部のがんでは悪性度を左右し治療の標的となる。

「主要なドライバー遺伝子は今後2～3年で見つかるはず。現在治りにくいがんの効果的な治療の標的になる可能性が高い」と期待

ドライバー遺伝子を活用した治療の手順
(肺がんの場合)

肺がんの細胞を遺伝子診断して
ドライバー遺伝子を特定

主なドライバー遺伝子の割合



バンデタニブ
投与

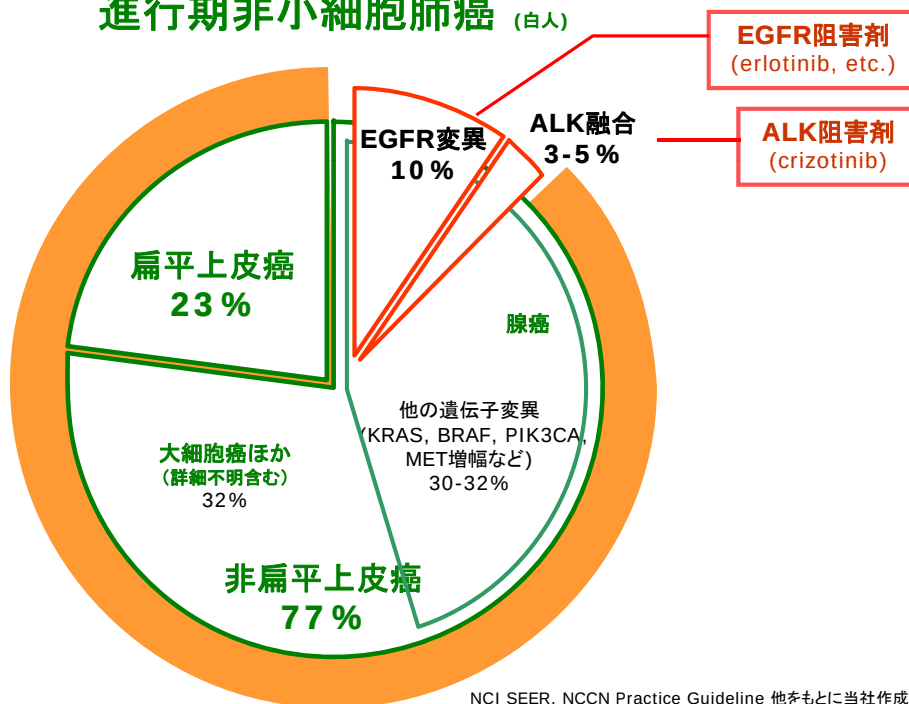
ゲフィニチブ
など投与

(出所) 2013年10月22日 日本経済新聞・同電子版をもとに当社作成

抗癌剤開発の環境変化

現実：85%（肺癌）は対象外

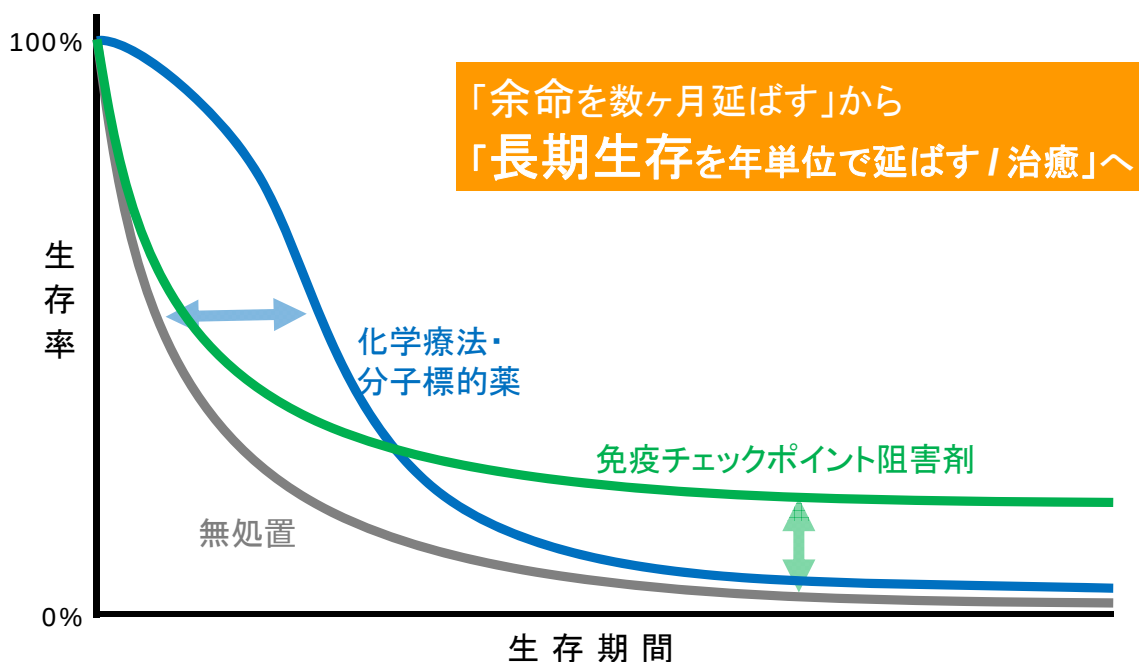
進行期非小細胞肺癌（白人）



NCI SEER, NCCN Practice Guideline 他をもとに当社作成

抗癌剤開発の環境変化

免疫系抗癌剤によるパラダイム転換



抗癌剤開発の環境変化

免疫系抗癌剤が開発の中心に

■ 大手製薬企業等の開発が一斉に免疫系抗癌剤にシフト

■ 「免疫系抗癌剤＋X」の試み増加

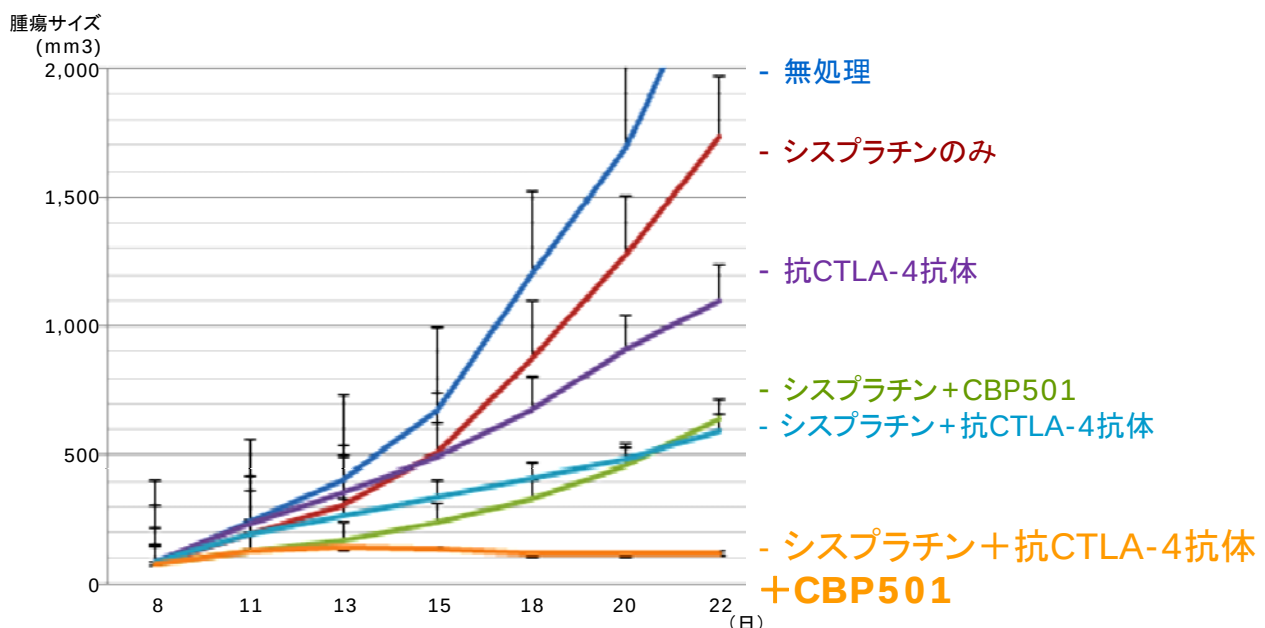
- 免疫系抗癌剤の課題である「効く患者さんの比率」(肺癌では2-3割)を高めるために、免疫系抗癌剤＋Xの併用臨床試験が多数進行中
- 「X」に従来型抗癌剤を用いた大規模な検証試験も進んでいる

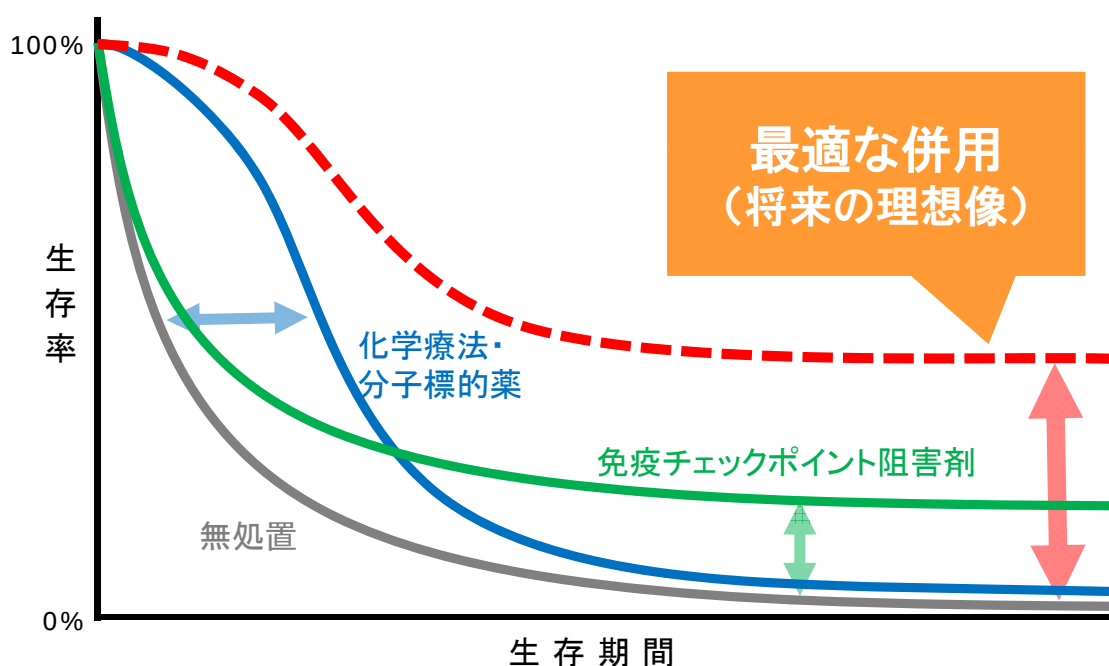
試験名	Checkmate-227	KEYNOTE-189
標的	PD-1	PD-1
対象疾患	非小細胞肺癌	非小細胞肺癌
治療	1次	1次
薬剤	Nivolumab (BMS) ±化学療法2剤	Pembrolizumab (Merck) ±化学療法2剤
症例数	1,980	570
試験開始	2015年8月	2016年1月
終了予定	2020年12月	2019年3月

抗癌剤開発の環境変化

CBP501基礎データと環境の符合

■ CBP501＋プラチナ系(従来型)抗癌剤の組み合わせは
免疫系抗癌剤との併用で作用を増強する





「創薬バイオベンチャー」とは

キャンバスの特徴と強み

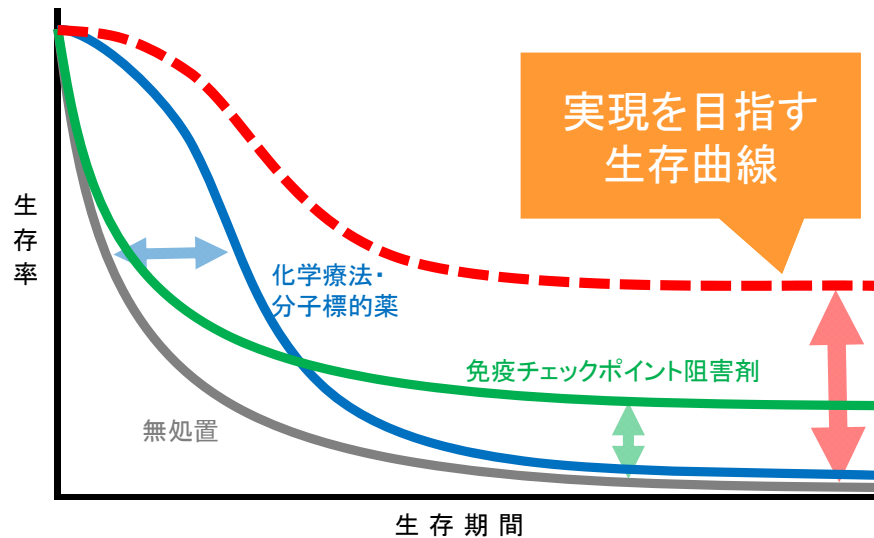
抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

免疫系抗癌剤＋化学療法(プラチナ系抗癌剤)＋CBP501

- 免疫系抗癌剤の課題である「効く患者さんの比率」の向上を目指す



良好な結果を得られる可能性

- ✓ ここまでの検証から、
現在最良のデータを出している「免疫系＋化学療法2剤」よりも
「免疫系＋化学療法1剤＋CBP501」が良い結果を出す可能性は高いと
考えられる

少ない症例数での設計が可能

- ✓ 免疫系抗癌剤早期臨床の特徴
- ✓ 他社のPh1～2でも、30症例程度のものが多い

→現在の手元資金ですぐにも試験開始が可能

期待する結果が得られたときの優位性

- ✓ 次の試験をピボタル試験とする展開の可能性
- ✓ 免疫系抗癌剤に大きくシフトしている大手製薬企業等の戦略との親和性
 - ・ 提携魅力
 - ・ 説得力

試験スケジュールの短縮効果

- 名称上は後退に思われるが、順調に進んだ場合の試験期間は今回フェーズ1b試験を実施することで**短縮**される

従来の計画 化学療法±CBP501

Phase 2b 試験

・100症例程度
・3～4年

Ph3 ピボタル試験

・300～500症例？
・3～4年

新計画 免疫系抗癌剤＋ 化学療法＋CBP501

Ph1

Ph1b試験

Ph1/1bを合わせて
・50症例程度
・2～3年

Ph2/3 ピボタル試験

・300～500症例？
・3～4年

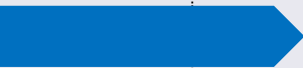
開始時期

- 実施サイトや規制当局との調整などが不確定要因
- 2017年6月期後半(2017年1月～6月)の開始を見込む

地域

- さまざまな優位点・欠点
- 臨床試験実施地域は現時点で非公表

《2017年6月期目標》臨床試験を開始

		探索・創出	最適化	前臨床試験
自社創出	CBP-A			
	CBP-B			
ファルマバレーとの共同研究	IDO/TDO阻害剤			
	(ターゲット非公表)			

■ ペプチド型化合物

- CBP-Aシリーズ
 - ✓ TAT-S216～CBP501の系譜に属する発展型
- CBP-Bシリーズ
 - ✓ CBP-Aシリーズとまったく別の発想から作製したペプチド型免疫系抗癌剤候補

■ ファルマバレーとの連携

- IDO/TDO阻害剤
 - ✓ 静岡県立大との共同研究（プレスリリース2016年6月29日）
- 低分子化合物（ターゲット非公表）
 - ✓ ファルマバレーのライブラリから探索・最適化（プレスリリース2016年4月27日）

《2017年6月期目標》
4系統の少なくとも1つで開発候補化合物を確定

「創薬バイオベンチャー」とは

キャンバスの特徴と強み

抗癌剤開発の環境変化

今後の開発計画

財務概況

財務概況

2016年6月期末 貸借対照表

		2015年6月期	2016年6月期	増減(参考値)
資産 の部	流動資産	953,097	923,428	△29,669
	現金及び預金	885,355	815,110	△70,245
	売掛金	50,958	56,202	5,244
	固定資産	44,762	43,844	△918
	有形固定資産	23,449	23,025	△424
資 産 合 計		997,859	967,273	△30,586
負債 の部	流動負債	33,083	38,135	5,052
	固定負債	—	—	—
	負 債 合 計	33,083	38,135	5,052
純 資 産 の 部	株主資本	945,720	902,535	△43,185
	資本金	3,788,146	3,974,048	185,902
	資本剰余金	3,774,996	3,960,898	185,902
	利益剰余金	△6,617,205	△7,032,195	△414,990
	自己株式	△215	△215	—
	新株予約権	19,054	26,602	7,548
純 資 産 合 計		997,859	967,273	△30,586

(単位:千円)

Stemline社
技術アドバイザリーフィー

- ✓ 提携成立(2014年12月)から4年間の概ね安定的な収益

新株予約権行使に伴う
新株発行

- ✓ 2015年7月発行の第10回新株予約権(最低行使価額 812円)
- ✓ 2016年6月末時点の未行使残高 665千株

財務概況

2017年6月期 損益見通し

(単位: 百万円)

	2016年6月期 期首見通し	2016年6月期 実績	2017年6月期 見通し(修正※)
事業収益	105	105	110
事業費用	448	504	574
研究開発費	267	316	341
販売費及び一般管理費	181	188	233
営業利益	△343	△399	△465
経常利益	△343	△413	△466
当期純利益	△344	△414	△467

※ 2017年1月4日業績予想修正公表

財務概況

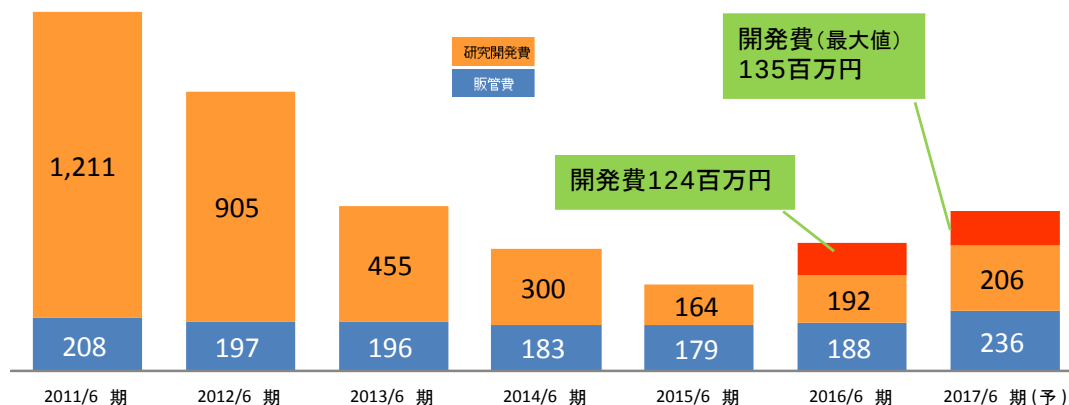
2017年6月期見通し

■ 事業収益: 110百万円

- ✓ Stemline社からの技術アドバイザリーフィー(安定的)

■ 事業費用: 574百万円

- ✓ 研究開発費 341百万円 (基礎研究費等206百万円+開発費の最大値135百万円)
- ✓ 販売費及び一般管理費 233百万円



CBP501

- 免疫系抗癌剤との併用によるフェーズ1b臨床試験を準備しています
- 開発パートナーとなる製薬企業等との提携早期獲得を目指しています

CBS9106

- 米国Stemline社が進める臨床第1相試験の進捗を支援していきます
 - ✓ 2017年初に進捗のアップデート報告が実施される予定です
- 提携対象外地域(日・中・台・韓)での提携獲得を目指しています

後続パイプライン

- 少なくとも1つの新しい後続パイプラインの確定を目指しています

情報開示全般

- 適時開示やブログなど、機会を捉えて積極的に情報を公表していきます

引き続きキャンバスにご注目ください

将来見通し等に関する注意事項

- 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。